

第16回 THE FOOTBALL CONFERENCE HYOGO 2023 報告書

- 【1】日時 令和5年1月22日(日) 10:00 受付、10:30~15:00
- 【2】会場 甲南大学岡本キャンパス
- 【3】講師 西川 誠太 (JFA 指導者養成ディレクター)
- 【4】人数 150人
- 【5】内容

① ご挨拶 (一社)兵庫県サッカー協会 会長 林 啓司



11月にワールドカップが開催された。
兵庫出身の堂安選手が活躍した。浦風FCからサッカーを始められ、その後、西宮SSでもプレーされた。
彼のサッカーとの出会いに関わったいろんな指導者がおられた。
今後も皆様といっしょに兵庫を盛り上げていきましょう。

② ご挨拶 (一社)兵庫県サッカー協会 技術委員長 昌子 力



指導者に伝えたいこと

- ・自身のサッカーの哲学・フィロソフィーを持つこと。
⇒選手のために、選手を成長させるものであること。
- 常に自分を「振り返る」ことが大事。
自分のした言動を客観的に振り返ること。
振り返らない⇒自分の枠にはめたがる。
子どもたちにとって、どうなのか常に考える。

他人の意見を常に入るとような準備をした上で、自分の意見を持ってほしいと思う。

自分のフレームに、はめない(柔軟な対応)

良かれとやってやっていること⇒振り返ってください。

自分が良かれとやっていること、→本当は違うんじゃない?⇒疑問に思ってください。

選手の顔をよく観よう→何か考えているはず⇒誠実さ・謙虚さを持ってください。

こどもの顔を見て、振り返ってください。

③ 講義 JFA 指導者養成ディレクター 西川 誠太 氏

「2022 ワールドカップ カタール大会 日本代表 テクニカル分析報告



ワールドカップ後、約1ヵ月で映像も交えた、詳しい分析を見せていただいた。

中央突破は困難⇒サイドからの崩しでのゴールが多かった。

カウンターアタックの質、プレスをかいくぐる・ハイスピードでのテクニック。

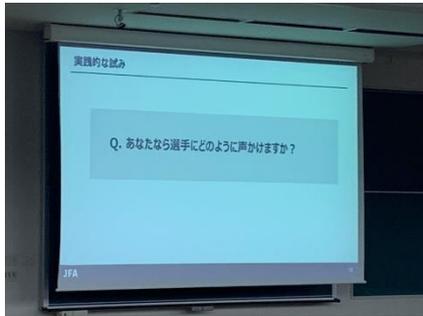
ビルドアップ、ハイプレスに対して、GKを含む数的優位を活かし、プレスをかいくぐるテクニック
広い守備範囲、素早くアプローチできるスプリント。

日常での環境（CL・EL 出場している日本人選手）

ストライカーの養成。

低い位置から攻撃、相手ハイプレスに対して、かいくぐる攻撃を標準装備

④ 「世界のトレンドから見えてきた未来への展望



サッカーに対して様々なニーズがある。3・4種 > 1・2種

コーチ中心か選手中心か

指導者に求められるもの

未来へのみちしるべ

【映像を観て、周りの方とディスカッション】

分析の観点。基本的なプレーの原則を知る。判断して実行したかのプロセス。

選手のプレーを、次こういうことにチャレンジしてみたらと言えるように。分析力が必要。

ミスをする権利を選手に与える、次へのチャレンジを授けられる

チャレンジ・ポジティブ

選手は、「何が悪いかではなく、どうしたら良くなるかを知りたい」

まずは指導者から。指導者がチャレンジ、クリエイティブに、ネクストチャレンジ。

⑤ 2022 指導者養成部活動報告 47FA チューター 三浦 清司



安心安全な活動。「2009年の約束 TEAM HYOGO ちからをひとつに」

JFA セーフガーディング

⑥ クロージング 「プレーの原則について」等 47FA シニアチューター 鈴木 義章



「あなたはどのような選手を育てたいですか？」

「そのためにあなたは、どのようなサッカー環境が必要だと思っていますか？」

プレーの原則について（映像）

「子どもたちが日本のどこでサッカーを始めても質の高い有資格指導者に巡り合える」

「サッカーに関わる全ての人が Happy に！」

